

令和5年度第1回倉敷市スポーツ推進審議会 会議録

日 時 令和5年5月30日（火）10時～11時30分

会 場 倉敷市庁舎3階 議会第2会議室

出席者 委 員：松井会長、宮川副会長、畝木委員、生水委員、長尾委員、
中野委員、野見委員、松崎委員、三宅委員、矢田貝委員
事 務 局：別府局長、浅沼部長、古賀次長、岡課長、千代延課長代理、
大嶋主幹、細田主事
保健体育課：荻野指導担当課長主幹
障がい福祉課：藤原主任

傍聴者 0名

1 開 会

- ・委員自己紹介
- ・開会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 会長 松井 守

2 報告事項

報告第1号 「倉敷市スポーツ基本計画」における数値目標及び補助数値目標の
進捗状況について

事務局から、資料を基に説明を行った。

【事務局説明】

- ・数値目標について

「倉敷市スポーツ基本計画」（以下、計画という。）における数値目標については、計画における施策の成果を把握していくための指標で、令和12年度までの達成を目指していく項目と水準を分かりやすく示したものである。

No. 1 「週1回以上スポーツをしている成人の割合」については、41.7%とな

り、前回実績を下回る結果となった。この結果は、企画経営室が毎年実施している「市民アンケート」の調査結果を集計したものである。なお、令和4年4月から、成年年齢が18歳に引き下げられたが、計画策定時の令和3年3月時点での成年年齢となる20歳以上の数値を集計している。

「週1回以上スポーツをしている働く世代（20～64歳）の割合」は36.9%と前回実績（37.6%）からやや減少し、「週1回以上スポーツをしている高齢者（65歳以上）の割合」は47.3%と前回実績（52.3%）から大幅に減少する結果となった。

スポーツ庁が実施している「スポーツの実施状況等に関する世論調査」においても、成人の週一回以上のスポーツ実施率は減少（56.4%⇒52.3%）しており、コロナ禍で外出制限等により運動の必要性を感じてスポーツを実施していた層が、再び実施しなくなったのではないかと考えられる。

No. 2「卒業後、自主的に運動やスポーツをしたいと思う中学2年生の割合」については、男子が85.9%、女子が79.1%と、男女ともに前回実績（男子：87.3%、女子：81.1%）を若干下回る結果となった。

男女ともに前回実績は下回ったものの、全国や岡山県の平均と比べて高い水準であることから、引き続きこの水準を維持し、目標値を達成できるよう、保健体育課と連携を図っていく。

No. 3の「「障がい者スポーツ・レクリエーション教室開催等事業」の参加者数」については、2,224人となっており、前回実績を上回る結果となった。

この要因については、コロナ禍で中止していた教室が再開したことにより、教室に参加する人が増えたものと考えられる。

No. 4の「国民体育大会に出場する選手数」については205人、No. 5の「国民体育大会における獲得点数」については225.3点となった。

令和3年は新型コロナウイルス感染症の影響により、本大会及びスキー競技会が中止となっていたが、昨年は冬季大会、本大会が実施され、令和元年の現状値と比べても選手数、点数ともに増加する結果となった。なお、国民体育大会については、年度

ではなく暦年で集計しており、令和6年（2024年）の佐賀大会から、名称が国民スポーツ大会（通称、国スポ）となる予定である。

No. 6の「全国障害者スポーツ大会に出場する選手数」については、21人という結果となった。令和元年度から3年連続で中止となっていた大会が、4年ぶりに開催されたことから、前年度に比べて増加している。

No. 7の「市主催スポーツイベントの県外参加者数」については、1,587人という結果となった。令和4年度については、瀬戸内倉敷ツーデーマーチを規模を縮小して4年ぶりに開催したが、倉敷国際少年野球、倉敷国際トライアスロン大会は中止とした。なお、今年度は、倉敷国際トライアスロン大会、瀬戸内倉敷ツーデーマーチについては、通常規模での開催を予定している。

No. 8の「スポーツ大会・イベントを観戦した人の割合」については、56.5%となっている。観戦したと回答した人のうち、観戦方法を尋ねたところ、約92%がテレビ中継と回答しており、次いで、現地での観戦、インターネットでのライブ配信と続いている。「現地で観戦を行った」と回答した人の割合が前年度は18.2%であったが、今年度は32.0%と大幅に増加しており、スポーツを観戦する機会が徐々に増えてきていることがうかがえる。

No. 9の「スポーツボランティアを行ったことがある人の割合」については、5.4%となっている。ボランティアを行わなかった人のうち、「どのような理由・きっかけがあればボランティアに参加したいと思いますか」との質問に対し、「時間に余裕がある」との回答した人が約43%、「興味のあるスポーツに関わることができる」と回答した人が約39%、「知人・友人からの誘い」と回答した人が約26%という結果となった。

No. 10の「市スポーツ施設の利用者数」については、1,260,168人、『学校体育施設開放事業』の利用者数については、874,595人となっており、前年度実績から増加する結果となった。令和3年度は、施設の臨時休館等により利用者数が減少していたが、令和4年度については臨時休館がなく、徐々に利用者が戻ってきていることがうかがえる。

No. 11の「倉敷市スポーツ情報サイト「Kurashiki Sports Navi」の閲覧数」については、572,534件となっている。

「Kurashiki Sports Navi」については、2018年4月に改修し、2020年2月に再度改修されており、令和4年度からはtwitter、LINE、YouTubeを本格的に運用し、閲覧数に合算したことで実績が増加している。

【出席者意見】

畝木委員：市民アンケートの結果で、「週一回以上スポーツを実施している人の割合」の項目について、全国の調査も成人となっているが、倉敷市の調査では、16歳以上の市民となっている。このことについて、何か理由があるのか。

事務局（細田主事）：この市民アンケートについては、市の企画経営室が16歳以上の市民を対象に実施している。本計画の目標値の算出にあたっては、16歳～19歳の区分を除いた数値を、実績値として報告している。

松井会長：生涯スポーツや競技スポーツ、広報など、様々な問題がある。倉敷市では、基本計画を策定した際に大きな柱として、「する」「みる」「ささえる」(※)といった観点でスポーツの振興に取り組んでいただいております、今後も実績値を把握しながら、施策に取り組んでいただきたい。

(※) 令和3年3月に策定した倉敷市スポーツ基本計画では、①生涯にわたるスポーツ活動の推進、②アスリートの発掘と育成、③スポーツを通じた地域社会の活性化、④スポーツ環境の整備という4つの基本方針を柱としている。

報告第2号 第36回瀬戸内倉敷ツーデーマーチの開催結果について

事務局から、資料を基に説明を行った。

【事務局説明】

令和5年3月11日、12日に瀬戸内倉敷ツーデーマーチを4年ぶりに開催した。新型コロナウイルス感染症対策として、一日あたりの定員を設けたり、送迎のバスが必要な長距離コースを中止するなど、例年の大会よりも規模を縮小した形での開

催となったが、2日間とも晴天に恵まれ、全国から延べ5,167名に参加いただいた。なお、本年度の大会については、通常規模での開催を予定している。

【出席者意見】

長尾委員：4年ぶりの開催ということだが、希望した人はすべて参加することができたのか。

事務局（細田主事）：今回の大会は、新型コロナウイルス感染症対策として一日あたりの定員を3,000人とし、事前申込のみとしていたが、お申込みいただいた方は全員が参加できている。

長尾委員：今後はもう少し増やしていく予定か。

事務局（細田主事）：令和5年度は、例年同様に定員を設けず、事前申込と当日申込を実施する予定であるため、参加者は増えることが予想される。

長尾委員：ボランティアに参加したことがあるが、最近は参加できてない。団体の中には、ボランティアに意欲的などころもあると思うので、そういった団体に呼び掛けてみてほしい。

松井会長：市では様々なスポーツイベントをされていると思う。昨今、ボランティアは非常に重要な役割を果たしていただいているので、しっかりイベントに参加した人員について、どこから参加しているのか検証していただければと思う。倉敷市は観光都市であり、スポーツを通じて観光に寄与することにつながるのではないか。そういった観点にも着目していただければと思う。

報告第3号 令第10回倉敷国際トライアスロン大会の開催について

事務局から、資料を基に説明を行った。

【事務局説明】

9月10日（日）に、倉敷国際トライアスロン大会を開催する。この大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、3年連続で中止としていたが、今年度

は通常規模での開催を予定している。

なお、大会名については、令和2年度から令和4年度の大会が選手募集前に中止していることから、令和5年度の大会を第10回大会として開催する。

【出席者意見】

矢田貝委員：今日時点での人数を報告していただいたが、ここ最近の申込者数はどういった状況か教えていただきたい。

事務局（細田主事）：例年の実績では、前回（令和元年第9回大会）については、定員割れとなっている。第7回、第8回大会については、大会自体は中止したが、申込期限よりも前に、定員に達している状況であった。今年度の大会については、前回大会の開催から期間が空いたことに加え、同時期に別の大会が開催することから、申込者数が減っている状況である。

矢田貝委員：参加者を増やすような取組みは行われているのか。

事務局（細田主事）：競技を主管している（一社）岡山県トライアスロン協会と連携を図りながら、スポーツクラブや近隣のトライアスロン協会にPRしているところだが、なかなか参加者は集まっていない。

松井会長：参加者が減少しているということは、大会としてマンネリ化している現状があるのではないか。魅力や付加価値が見いだせず、自然消滅していく大会やイベントが多くある。事務局においては、大会が終了した後にしっかり検証していただいて、また、地元の児島商工会議所とも連携を取っていただきながら大会を盛り上げる機運を醸成する必要があると思うのでよろしくお願ひしたい。

3 議 事

議案第1号 倉敷市スポーツ基本計画の改定について

事務局から、資料を基に説明を行った。

【事務局説明】

令和3年3月に、市民のだれもが、体力や年齢等に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指し、スポーツ振興の新たな指針として、「倉敷市スポーツ基本計画」を策定した。

本計画は、令和3年度から令和12年度までの10年間を計画期間としているが、急激に変化する社会情勢に対応し、国や県の計画との整合性を図るため、計画期間中に見直しを行うこととしている。

計画改定に向けた大まかなスケジュールについては、まず、令和5年度の第2回審議会において、市民アンケートの案について審議いただく。その後、3月ごろには、市民3,000人に対して、アンケート調査を実施する予定である。

なお、このアンケート調査については、以前の審議会でご意見があった、ネットでの回答もできるよう、調整していく予定である。

アンケート調査を実施した後、令和6年4月に集計、6月ごろに計画の改定についての諮問を行い、第1回審議会を開催して、改定の基本方針について審議していただき、素案を作成していく予定である。

令和7年の7月から9月ごろには、パブリックコメントの募集、早ければ10月ごろには、内容が固まることとなる。

【出席者意見】

宮川副会長：アンケートはいままで封書だったと思うが、ネットでの回答を併用されるということか。

事務局（千代延課長代理）：様々なアンケート調査で実施されているように、アンケート用紙にQRコードを記載し、スマートフォン等で回答できるような形を想定している。

宮川副会長：大学でもアンケート調査を実施するが、自由記述欄を設けると、様々な情報を得ることができる。多くの情報を得られるように、ぜひ自由記述欄を設けていただきたい。

松井会長：非常に重要なことだと思う。時代のニーズに沿った調査方法をぜひとも

検討していただきたい。アンケートはどういった内容を想定しているのか。

事務局（千代延課長代理）：前回のアンケートと比較する必要があるため、従来の内容を踏襲しつつ、新しい設問を設けることを想定している。

三宅委員：アンケートの結果をどこまで計画に反映していくかというところは、行政側としては悩ましいところだと思うが、可能な限り、市民から返送、回答いただけるよう、頑張りたい。

松井会長：この3年間で、小学校や中学校において、体力テストの結果を集計していると思うが、コロナの影響で基礎体力が低下しているといった現状はあるのか。

松崎委員：先日発表された県のまとめでも出ているが、やはり体力が低下してきている。学校現場でどういうふうに対策をしていくのかという調査も県から来ていたので、コロナの影響がかなり出てきているという現状である。学校現場で授業や部活動が今後どういう形になるか、不透明な部分もあるが、学校現場として子どもたちの体力をつけていくために、どういう方策をとっていくのが一番良いか、今後の大きな課題であると思っている。

松井委員：体育嫌い、運動嫌いも多いと聞いているので、何とか方策を考えていただきたい。事務局においては、教育委員会、保健福祉局としっかり連携していただいて、健康で元気な倉敷市に向けて、ぜひともご尽力いただければと思う。

長尾委員：先ほどの進行管理表の中に、ニュースポーツ用具の貸出が多くなっていると出ている。不登校の子どもたちの運動の場が減ってきている中で、誰でも出来るニュースポーツがもっと広まってほしいと思っている。そのためには、指導する人が重要であり、指導者がいないと維持していくことが難しい。そういった点で、ニュースポーツに対するアプローチはどうされているのか。

事務局（千代延課長代理）：ニュースポーツについては、倉敷市スポーツ推進委員が

中心となって普及を図っている。原則小学校区に2名の配置としており、現在119名が活動している。ニュースポーツ用具の貸出については、(公財)倉敷市スポーツ振興協会が実施している。今年度から、倉敷市、倉敷市スポーツ推進委員、倉敷市スポーツ振興協会の3者がより連携できるよう、会議等に協会の方も出席いただいている。

事務局(細田主事): 現在、スポーツ推進委員の派遣事業を行っており、依頼があれば、無料で推進委員の指導を受けることができる。常に行事に参加するというよりは、最初はスポーツ推進委員が指導して、徐々に団体の人達が自立して活動できるよう、支援していくようなイメージである。そういった活動を通して、ニュースポーツの普及を図っている。

長尾委員: きっかけづくりということか。

事務局(細田主事): その通りである。

松井会長: 実施する人もだが、やはりスポーツ団体の連携が必要ではないかと思う。また、部活動の地域移行について、近隣の市町が大学と連携する動きもある。倉敷市においては、本審議会に出席いただいている倉敷芸術科学大学や川崎医療福祉大学ともしっかり連携していただいて、取り組んでいただきたい。

長尾委員: 地域移行だけではなく、ニュースポーツの普及という点についても、大学の学生が関わっていただければ、若い世代の方もイベント等に参加しやすいのではないかと思う。

松井会長: 様々な組織と倉敷市とが連携ができるような体制があれば、生涯スポーツや障がい者スポーツも発展していくと思うので、今後しっかり検討していただきたい。

中野委員: 今回、スポーツ団体の関係図を事務局に作成していただいている。今回の計画の改定にあたっては、他部署との連携というところをしっかりと考えていただきたい。保健福祉の分野では、食事もだが、運動が重要であり、特に高齢者には運動ができる体制が必要である。国民健康保険の医療費や介

護保険料が上がってきている中で、すでに高齢者支援センター等でスポーツ推進委員の方に活動していただいているが、もう少し早めの段階で、運動の大切さを広めていけるような活動があれば良いと思う。個人的には、運動・スポーツの視点で、ボランティア育成に力を入れてほしいと思っている。ボランティアセンターでの募集やボランティアをやりたい人の連絡待ちのような現状ではなかなか難しいと思うので、先ほどの大学生を巻き込んで、例えば夏休みにボランティア育成の講座を開いたりできないか。川崎医療福祉大学で運動の講座を受講した際に、地域のラジオ体操をしている人たちが学生と接することに対して非常に喜んでいて、ボランティア育成と交流という点について、これから取り組んでいかなければならない課題であると考えている。

長尾委員：若い学生の力は重要だと思う。最初の一步、きっかけとなるような取り組みを行った方が良いと思う。

宮川副会長：大学については、基本的にはボランティアセンターのようなものがあって、各地域から要望があれば学生を派遣している。これまでも、大学が独自に考えて、大学の発想で、専門性を生かしながらボランティアに行ったりはしているが、それぞれの大学でやっても限界がある。もう少し上の視点から、ハブ（HUB）となるような市の組織が必要なのではないか。今でも十分動いていただいているとは思いますが、子どもや中高年の健康づくりをどういうふうに行っていくか、その際のボランティアをどういう形にしていくか、ある程度枠組みがあれば、大学も動きやすい。

松井会長：基本計画の数値目標の中にも、スポーツボランティアを行ったことがある人の割合という項目がある。実現可能かはわからないが、スポーツボランティアバンクを立ち上げていただいて、生涯スポーツ、障がい者スポーツ、競技スポーツなどさまざまな分野において、窓口となるような仕組みを作ってみてはどうか。今回の資料でも関係図を示していただいているが、様々な団体と連携を取りながら、お互いがウィンウィンの関係になれば良

いのではないかと思う。すぐには難しいと思うが、発展的に考えていただきたい。

野見委員：ボランティアバンクというと、漠然としている。ボランティアをしようとする人はいると思うので、例えば、市がこういうイベントにこんなボランティアを募集しているといった、具体的な内容を網羅して示していただければと思う。

宮川副会長：市としては現状そういった仕組みはあるのか。

事務局（千代延課長代理）：現在は、倉敷国際トライアスロン大会や瀬戸内倉敷ツーデーマーチは、それぞれでボランティアを募集している。

宮川副会長：倉敷市がこういうイベントでボランティアを募集しているといった一覧表はあるのか。計画的にボランティアを募集していることは承知しているが、そういったものは見たことがない。また、イベントではなく、ボランティアができる人がどこの地域、大学にいるのかというような、マップみたいなものがあると良いと思う。双方向からの視点で、ボランティアの実施率を上げていければと思う。

野見委員：広報くらしきにボランティア募集の情報を掲載していただいているが、小さい枠の中に記載してあり、見る人がいないと思うので、特集記事を組むなどの対応もお願いしたい。

松井会長：今までの御意見は本当に貴重だと思うので、ボランティアマップやボランティアの養成といった部分については、次期計画の改定の内容にも盛り込んでいただきたい。

事務局（岡課長）：今まで、我々もそういった視点で動いていなかった。今回、様々な御意見をいただいたので、どういうやり方が効果的なのか、他市町村にもそういった事例があるかもしれないので、しっかり研究させていただきたい。すぐには難しいが、将来的にどういった方向性でいくのか、また相談させていただきながら、進めていきたい。

4 その他

①倉敷市におけるスポーツ関係団体の関係図について

倉敷市におけるスポーツ関係団体の関係図を作成した。本市においては、スポーツ振興課を含めた文化産業局だけではなく、保健福祉局や教育委員会が連携を図りながら、スポーツ振興に取り組んでいる。

本市のスポーツ振興の【核】となる組織である（公財）倉敷市スポーツ振興協会や倉敷市スポーツ推進委員協議会とは、引き続き連携強化に努めていく。

また、その他関係団体についても、相互に連携を図ることができるよう、協力体制を築いていく。

②部活動の地域移行にかかるアンケートの結果について

部活動の地域移行について、令和5年度からの「改革推進期間」に向け、本市の部活動の地域移行における受皿となり得る団体に対し、令和4年12月から令和5年1月にかけてアンケート調査を実施した。部活動の地域移行については、引き続き教育委員会と密に連携しながら、方向性を検討していく。

③水島緑地福田公園のプールについて

水島緑地福田公園のプールについては、現在、基本設計を行っているところで、まもなく全体像が形になる予定である。

④水島緑地福田公園の天然芝グラウンドについて

水島緑地福田公園の天然芝グラウンドについては、現在再整備事業として、天然芝のグラウンドであるサッカー場兼ラグビー場の再整備を実施している。

もともと四方にあったカイヅカイブキを伐採し、防球ネットを設置することに加え、芝生グラウンドの面積を拡張する整備も実施しており、以前は（大人の）サッカーコート1面分しか確保できなかったが、2面分を御利用いただけるようになる予定である。

現在、拡張部分も含め、業者へ芝生管理を委託し管理しているところで、御利用いただける状態になれば、供用を再開したいと考えている。

⑤世界水泳の事前キャンプについて

7月に福岡で行われる世界水泳に向けて、水球女子日本代表が倉敷市で事前キャンプを行う予定である。

⑥国民スポーツ大会冬季大会の合同事務局について

令和7年1月から2月にかけて本市及び岡山市において開催される、国民スポーツ大会冬季大会の開催に向けて、令和5年4月1日から、岡山県庁内に本市及び岡山県、岡山市の3者が職員を派遣し、合同の事務局を設置している。なお、本市からは2名の職員が派遣されている。

5 閉 会

閉会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 副会長 宮川 健